ちり紙

多田龍介

◆目次

ちり紙 6
夏に 8
お茶の間 10
世間話 12
コント 14
軽く思うに 16
お祭り 18

何でもいいや 20
精神汚染 22
違和感 24
忍者 26
お祓い 28
バッドモデル 30
有人ぴあ 32
あとがき 35



ちり紙

また不滅の一編ができてしまう
と思うと
なかなか書けないので
もっとこう
ちり紙みたいな感じで

死んだ人を思う
死んでなお
いなかったことにされる
人たちを
生者も色あせ

欲しがりません勝つまでは
とかやりたい人たちを前に
飲ま飲まイェイなどと
僕が言っている
十分な抑止力さ

夏に

暑い
狂気の沙汰

太陽のせいって言っても
太陽むちゃくちゃ怒ってるよ？

人間の
人間の行いに対する罰として

日本にはプライドがあるという
プライドのないころのおまえが好きだった

悔い改むる罪人にこそ
幸いあるべしという感じで

よいものをよいと評価しない者は
ダメなものをよいと評価する羽目になりかねず

為政者、偶像、これらことごとく
ダメなものなのだ

価値は崩壊した
僕が上がってこないなら

これら上がったものは何なのか
下が上で、上が下で、もう何もわからんぜ

お茶の間

おまえに定点カメラを設置し
コケるところまでを見届けられたら

そいつはロマンだぁ
ロクな死に方しませんよ

そんなケースがあった
えぇ、ここに

しかし何たるドラマ
何たる思想！

とっても楽しかったです
これぞ一個の人間であった



世間話

先日、H田さんのダイアリーを見て面食らい
遡ってみてMen cry

どういう話かわからんが
カオスである

ギャップ萌えというか
ギャップ燃えである

場は人間関係でできている
が、僕は人間関係に疎い

それぞれの人の思いに引きずられ過ぎずに
自分の書きたいことを書く

それがなかなか
難しいんだなぁ

コント

僕は何がしたい？
どうなりたい？

静かな生活
それはもう得てます

寝ていられるだけの貯え
それはもうあります

名声
それももうあります

そして矢面にも立ってない
言いたい放題です

気づけば僕は
己が理想的な位置にいることを

世界の諸悪と戦うために
勇ましく立った男が

すごすごと引き返し
安楽に寝ている

軽く思うに

愛国心はならず者の最後の砦とある

人は後天的な働きによって
評価されるべきだ
後天的な働きがなかった

もう、この国に生まれただけでよしとしよう
そうだそうだ
この国に生まれてなければ下の下だ
排外主義
こういう具合だ

僕は日本好きですよ
安全だし、人はいいし
あのいい人たちが

このヘイトスピーチを？
といぶかり

コミュニティは異質なものを排除する
どこにもこの問題はあるだろう
僕が釘を刺しておいたことで
そう無茶な虐待は
しづらいはずなのだ

お祭り

お祭りなどしている時ではないと書いた
Oh、無粋

いや、実際、犠牲者の死を悼み
解決の方策を人類挙げて
考えねばならぬ時なのだ

喪に服せ
ウクライナの、ガザの、イランの人々を思って

って対岸ですし
と言われるかもしれない

此岸でも死んでるんですよ
自国民を殺している、だと？

という数十年

危機に際して土に頭をうずめる
駝鳥の姿を思い起こさせる

ちなみに僕のお爺ちゃんが
十代でやっていた同人誌は
駝鳥という

けれど駝鳥はそういう行動はしないんだと
駝鳥の名誉のために言うと

もうどうでもいいことしか言えなくなって
妄動したら検挙ですし
謙虚にお祭っていいのよ?

何でもいいや

多様性という言葉が嫌いとあった
今は多様性があるか？

ある↓野球ファンは巨人も阪神も中日も、どの球団もいる
ない↓巨人一辺倒でこそないが価値観は東大一択のようだ

巨人と阪神と中日の間に
価値の優劣はないのである
勝ちの優劣はあっても

東大一択になるのは
偏差値という一本線の価値基準しか知らないからだ

そこへ海外が来る
やっぱドジャースよね～

うちはハーバードざます

よし、付き合うのをやめよう

という現在地

精神汚染

昔は
駅でも喫煙場があり
プカプカ吸っていた

役を取りたい？
なら脱げと
風のうわさで聞きました

故郷今昔
なるほど悪い

しかしきれいすぎる水に
魚が棲まないように

無菌状態では

弱るばかりなのではなかろうか

案ずるな
毒気は満ちている
ネット空間の中に

違和感

蝉があまり鳴かない
暑すぎるから？

蛾が灯に群がる姿を
とんと見かけない
ＬＥＤだから？

これでは飛んで火に入る夏の虫の例えが
すんなり腑に落ちない

というような違和感を
抱えつつもう幾年

間違いはここまで大きくなった
これでよかったとのたまう場面ではない

どこが間違っていたかを探す場面だ

検証は不可能
よくなくてもここで生きていくしかない
僕らの世界で

忍者

君の代わりはいくらでもいると言う上司がいるというでは上司の代わりもいくらでもいそうなものであった

己をこれでもかと無力だと思わせる社会に住んでいる果てしない愚弄（ぐろう）、嘲笑（ちょうしょう）、嘲り（あざけ）

職人の仕事は代わりは効かない
代わりはたくさんいるというのは
大量生産のレシピだ
工場で作るツナ缶だ

おまえは甘いって言うんですよ
しかし甘いのは僕の信条です
魂のショコラテを

僕もまた
穀潰(ごくつぶ)しだと思われてるんですよ

そんなあなたがいつの間にか
帝君？　なんてことになるなんて

あぁ、だれが偉いかは本当にわかりません

お祓い

肩が痛いという人の
神社に行けと君の言う

待て待て待て待て
違うだろと

湿布貼れとか
ないのかよと

近代合理主義の精神が
発狂しちゃうじゃないの

夜爪を切るなは
暗くて深爪するからだし

仏は肉を食べないは
お供えしたら腐るからだし

という見方もある
しかしだ

なるほど、悪魔の仕業でも
構わない

大切なのは
本人が納得することなのだ

バッドモデル

しゃぶ漬けにされた女はエロい
しゃぶ漬けにされたおっさんはキモい
何という人権の侵害であろう！

という罪を
この国の上層部は犯し続けている
そうなんだ

バブルのころから
ノーパンしゃぶしゃぶと言っていたのだ

性欲と食欲は
両立するのか
臭いんじゃないか
そんな疑問はあるが

女体シャンパンタワーにしても
わりかし羨ましくない

ＡＶ女優の話がつまらなくても
特に問題はないように思う

有人ぴあ

無能だと思わされるのは悲しい
幾ばくもなく
誰もが無能になる
その時に思うのだ
なぜイキってしまったのかと

木に登れないことを
魚は悔やまない
泳げないことを
猿は悔やまない
没交渉

よき社会とは
弱者を十分に
考慮に入れた社会だ
有能以外切り捨てるなら
全員地獄落ちだ



あとがき

この小冊子は二〇二六年七月にネットに投稿した詩、十四編をまとめて編まれた。

読み返してみて、その頃何があったのか、何もわからない。時期的にいうと退院し、体調が回復してきて、お仕事ばりばりだったのだろうか。しかし心象スケッチといっても、これはなかなか。

一つには音楽を作るのが楽しかったというのがある。曲のために詩をひねり出すという具合で。しかしやはり文人たる者、文字をおろそかにしてはいかん。大丈夫、おろそかになってない。かどうかは皆さんに判断してほしい。

それでは、手に取ってくれた方に感謝を込めて。

二〇二六年十月十七日　　多田龍介

ちり紙

令和八年十月十九日　初版発行

著　者　多田　龍介

発行者　多田　龍介

発行所　明水工房

©Ryusuke TADA 2026